

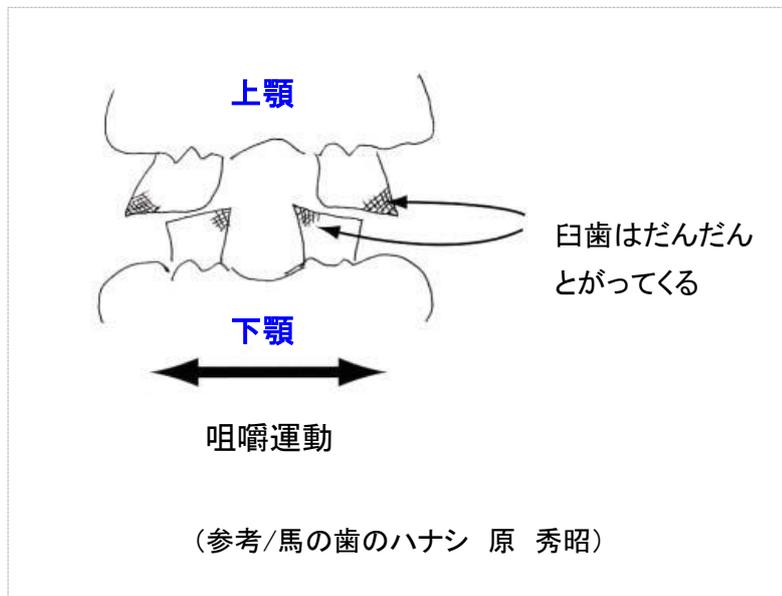
口腔の役割

馬齢を重ねる

「馬齢を重ねる」という言葉がありますが、馬の歯は、年齢とともにすり減っていくので、歯を見ればその馬の年齢、つまり馬齢がわかるそうです。

馬の歯は硬い草を食べるときに、上下の歯をすり合わせて咀嚼(そしゃく)するので、その減り方も激しく、1年間に平均2ミリずつ減るのだそうです。

この馬の歯、特に健康管理が大切な競走馬については歯の管理には非常に気を使い、虫歯でなくてもヤスリをかけて矯正すると言われます(図)。すり減った状態を放置すると、この尖(とが)った部分が頬の内側や舌の粘膜を傷つけ、口内炎を起し、ひどい場合は潰瘍ができたり、化膿もします。もちろん噛み合わせにも影響が出て、食欲があるのに満足に食べられない状態に陥り、せっかく調整した体調に悪影響を与えます。



これらのことはすべて人にもあてはまります。最近では、食生活の変化により、歯がきちんとすり減らない、あるいは歯ぎしりや、食いしばり癖による極端な歯の摩耗のため、噛み合わせが悪くなり、体調に影響することもあります。

競走馬は噛み合わせにより運動能力に大きな影響が現れるため、日々の口腔内の検査とメンテナンス、さらに年に2~3回の専門の獣医師による歯科検診を行うのだそうです。人が競走馬に見習うことは多そうです。

さて、本題の「馬齢を重ねる」ですが、「何もせず、いたずらに年を取ってしまった」とあくまでも自分を謙遜(けんそん)して使う言葉です。間違えて他の人に使わぬよう、気を付けなければなりません。



【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

